

3 各コースにおける教育・研究の概要

(1) 授業実践探究コース

佐賀県教育の課題としての「学力向上」に応じて、学力と教育課程、学習評価についての高度かつ実践的な知識・技能を有し、教育課程、及び授業実践と学習評価の改善・開発に向けて新たな取り組みを行うことができる教員の養成をめざし、理論と実践の往還を図る研究・教育を行う。

(2) 子ども支援探究コース

佐賀県教育の課題としての「不登校、いじめ問題への対応、特別支援教育充実」に応じて、生徒指導・教育相談系、特別支援教育系のそれぞれにて、生徒指導、教育相談、及び特別支援教育についての高度かつ実践的な知識・技能を有し、児童・生徒の成長に向けて新たな取り組みを行うことができる教員の養成をめざし、理論と実践の往還を図る研究・教育を行う。

(3) 教育経営探究コース

佐賀県教育の課題としての「地域の課題や子どもたちの実情に応じた新しい学校づくり」を実現するために、学校経営、及び学校と地域との連携についての高度かつ実践的な知識・技能を有し、新たな学校づくりに向けての取り組みを行うことができる管理職教員、及び確かな学級経営ができる新採教員の養成をめざし、理論と実践の往還を図る研究・教育を行う。

4 学位授与の方針

学校教育学研究科教育実践探究専攻では、現代的な学力の育成、多様な教育ニーズへの対応、今日的な学校運営の充実という3つの教育課題に応じて、高度な専門性と実践的な指導力を備えた、学校変革を担うリーダー教員、及び学校教育課題を的確に把握できる新人教員の養成を目的としている。

目的に応じて、以下の学習成果の達成を学位授与の方針とする。

- ① 今日的な教育課題の探究を継続的に行うことができる資質・能力。
- ② 今日的な教育課題の探究に必要とする理論的な考察を行う資質・能力。
- ③ 今日的な教育課題の探究に必要とする実践を新たに試みる資質・能力。

5 教育課程編成・実施の方針

(1) 教育課程の編成学位授与の方針①～③の達成のために、第1に「課題探究」、第2に「理論と実践の往還」の2つをカリキュラム原理とし、以下の授業科目によって、教育課程を編成する。

- ①課題探究の具体化のために「目標設定確認科目」、及び「目標達成確認科目」を配置する。
- ②理論的な考察のために「共通科目」を配置する。
- ③新たな実践を試みるために「実習科目」を配置する。
- ④理論的考察と実践の試みを総合するために「コース専門科目」を配置する。

(2) 教育の実施体制

- ①各学生に応じて1年次より主指導教員，副指導教員を配置し，適切な指導を行う。
- ②教員は，学生との面談による履修指導を行い，研究指導実施報告を行う。
- ③定期的に，教育課程の編成・実施に関する課題分析，及びその改善について検討・実施する。
- ④シラバスを明示し，授業科目の目標，内容，及び成績評価について履修学生に周知する。
- ⑤各学期末には学生による授業評価アンケートを実施し，その結果に応じて授業改善を行う。
- ⑥授業科目の関連や難易度を表現するコースナンバリングを行い，カリキュラム構造を明示する。

(3) 教育の実施方法

- ①授業科目の履修を容易にするために，適切なガイドライン（履修案内等）を提示する。
- ②定期的に，教員は履修指導や実習指導を行う。
- ③必要な場合，教員はティーチング・ポートフォリオの教育理念と教育方法を学生に説明する。
- ④実習校・関係機関と協議し，履修学生の課題に応じた実習計画を作成し，個別の指導を行う。
- ⑤学修効果を高めるため，理論科目と実習科目の履修時期等を調整する。
- ⑥学生の希望に応じて、教育実践に関する研究論文作成の指導を行う。

(4) 学修成果の評価

- ①授業科目の学修成果を評価するために，授業科目担当教員は，測定する到達目標の特性に応じて，筆記試験，レポート（論文），作品，発表，活動内容等により多面的評価を行う。
- ②個別の授業科目の成績評価方法については，シラバスに明示する。
- ③成績評価は成績評価基準に基づき判定する。

| 評語 (評価) | 評点 | 評価基準 | 合否判定 | 成績評定 (GP) |
|------------|-------------|-------------------------------|------|--------------|
| 秀 | 90点以上100点満点 | 学修到達目標を十分に達成し，極めて優秀な成果を上げている。 | 合格 | 4 |
| 優 | 80点以上90点未満 | 学修到達目標を十分に達成している。 | | 3 |

| | | | | |
|----|---------------|--------------------|-----|---|
| 良 | 70 点以上 80 点未満 | 学修到達目標をおおむね達成している。 | | 2 |
| 可 | 60 点以上 70 点未満 | 学修到達目標を最低限達成している。 | | 1 |
| 不可 | 60 点未満 | 学修到達目標を達成していない。 | 不合格 | 0 |

※上記により評価が難しい授業科目は、合又は不可の評語によって表し、合を合格とし、不可を不合格とする。

- ④教育課程を通した学修成果を，実践研究報告書及び各授業科目の成績を用いて総合的に評価する。
- ⑤成績評価の結果は，評価分布等を使用して定期的に点検を行い，必要に応じて教育方法等の改善を行う。

6 カリキュラムマップ

(1) 授業実践探究コースにおける教育目標を達成するための授業科目の流れ
(カリキュラムマップ)

| 学位授与 の方針 | | 授 業 科 目 名 | | | |
|-------------|---------|--------------------|------------------------------|-------------------|-------------|
| | | 1 年 前 期 | 1 年 後 期 | 2 年 前 期 | 2 年 後 期 |
| ① | | 教育実践課題研究 I | | | 教育実践課題研究 II |
| ② | 共通科目 | 特別支援教育の基礎と課題 | 教育相談・学校カウンセリングの基礎と課題 | | |
| | | 教育経営の基礎と課題 | <u>教科等における ICT 利活用の基礎と課題</u> | | |
| | | 授業づくりと学級経営の基礎と課題 | <u>学校教育と教員のあり方に関する調査方法論</u> | | |
| | | 現代的な学力観と授業実践の基礎と課題 | | | |
| | | 教職キャリアデザインの基礎と課題 | | | |
| | | 子どもの学ぶ意欲の基礎と課題 | | | |
| | | 教育課程編成の基礎と課題 | | | |
| | コース専門科目 | 教科教育の理論と実践 | 学力と学習評価の研究 | 授業実践と学習評価の省察 | |
| | | | 授業実践の研究 | 教育内容の開発 II (発展) | |
| | | | 授業実践と学習評価の開発 | | |
| | | | 教育内容の開発 I (基礎) | | |
| ③ | | 基盤実習・異校種実習 | | 学校課題探究実習・学校変革試行実習 | |
| 標準修得 単位数 | 18 | 17 | 4 | 7 | |

※下線は、選択必修科目（2科目のうち1科目以上を履修する）。

(2) -1 子ども支援探究コース（生徒指導・教育相談系）における教育目標を達成するための授業科目の流れ
（カリキュラムマップ）

| 学位授与の方針 | | 授 業 科 目 名 | | | |
|---------|---------|----------------------|-----------------------------|-------------------|-----------|
| | | 1 年 前 期 | 1 年 後 期 | 2 年 前 期 | 2 年 後 期 |
| ① | | 教育実践課題研究Ⅰ | | | 教育実践課題研究Ⅱ |
| ② | 共通科目 | 特別支援教育の基礎と課題 | 教育相談・学校カウンセリングの基礎と課題 | | |
| | | 教育経営の基礎と課題 | <u>教科等におけるICT利活用の基礎と課題</u> | | |
| | | 授業づくりと学級経営の基礎と課題 | <u>学校教育と教員のあり方に関する調査方法論</u> | | |
| | | 現代的な学力観と授業実践の基礎と課題 | | | |
| | | 教職キャリアデザイン の基礎と課題 | | | |
| | | 子どもの学ぶ意欲の基礎と課題 | | | |
| | | 教育課程編成の基礎と課題 | | | |
| | コース専門科目 | 教育相談における見立てと手立て | 発達障害を持つ子どもの理解と支援 | 子ども支援活動実践の開発・省察 | |
| | | 児童福祉と教育 | 発達障害児者のライフスキルの理解と支援 | | |
| | | | 心身の発達過程論 | | |
| | | | 個が生きる集団づくりのための生徒指導 | | |
| ③ | | 基盤実習・関係機関実習 | | 学校課題探究実習・学校変革試行実習 | |
| 標準修得単位数 | | 20 | 17 | 2 | 7 |

※下線は、選択必修科目（2科目のうち1科目以上を履修する）。

(2) -2 子ども支援探究コース（特別支援教育系）における教育目標を達成するための授業科目の流れ
 （カリキュラムマップ）

| 学位授与の方針 | | 授 業 科 目 名 | | | | |
|---------|---------|--------------------|------------------------------------|--------------------------------------|---------------|---|
| | | 1 年 前 期 | 1 年 後 期 | 2 年 前 期 | 2 年 後 期 | |
| ① | | 特別支援教育実践課題研究Ⅰ | | | 特別支援教育実践課題研究Ⅱ | |
| ② | 共通科目 | 特別支援教育の基礎と課題 | 教育相談・学校カウンセリングの基礎と課題 | | | |
| | | 教育経営の基礎と課題 | <u>教科等におけるICT利活用の基礎と課題</u> | | | |
| | | 授業づくりと学級経営の基礎と課題 | <u>学校教育と教員のあり方に関する調査方法論</u> | | | |
| | | 現代的な学力観と授業実践の基礎と課題 | | | | |
| | | 教職キャリアデザインの基礎と課題 | | | | |
| | | 子どもの学ぶ意欲の基礎と課題 | | | | |
| | | 教育課程編成の基礎と課題 | | | | |
| | コース専門科目 | 障害児者の病態・生理の理解と支援 | 発達障害を持つ子どもの理解と支援 | 子ども支援活動実践の開発・省察 | | |
| | | | 発達障害児者のライフスキルの理解と支援 | | | |
| | | | 心身の発達過程論 | | | |
| | | | 重複障害児の理解と支援 | | | |
| | | | 知的障害と自閉スペクトラム症の理解と支援 | | | |
| | ③ | | 基盤教育実習（特別支援教育） 学校変革基盤実習（特別支援教育） | 学校課題探究実習（特別支援教育） 学校変革試行実習（特別支援教育） | | |
| | 標準修得単位数 | | 18 | 19 | 2 | 7 |

※下線は、選択必修科目（2科目のうち1科目以上を履修する）。

(3) 教育経営探究コースにおける教育目標を達成するための授業科目の流れ
(カリキュラムマップ)

| 学位授与の方針 | | 授 業 科 目 名 | | | | |
|---------|---------|----------------------|-----------------------------|--------------|-------------------|---|
| | | 1 年 前 期 | 1 年 後 期 | 2 年 前 期 | 2 年 後 期 | |
| ① | | 教育実践課題研究Ⅰ | | | 教育実践課題研究Ⅱ | |
| ② | 共通科目 | 特別支援教育の基礎と課題 | 教育相談・学校カウンセリングの基礎と課題 | | | |
| | | 教育経営の基礎と課題 | <u>教科等におけるICT利活用の基礎と課題</u> | | | |
| | | 授業づくりと学級経営の基礎と課題 | <u>学校教育と教員のあり方に関する調査方法論</u> | | | |
| | | 現代的な学力観と授業実践の基礎と課題 | | | | |
| | | 教職キャリアデザイン の基礎と課題 | | | | |
| | | 子どもの学ぶ意欲の基礎と課題 | | | | |
| | | 教育課程編成の基礎と課題 | | | | |
| | コース専門科目 | 学校組織論 | 学校内外連携・協働論 | 教育経営改善の開発・省察 | | |
| | | | 学校経営課題探究の方法論 | 学校内外連携・協働演習 | | |
| | | | 地域教育経営課題探究の方法論 | | | |
| | | | 学級・学校危機管理論 | | | |
| | | | 学校経営法規論 | | | |
| | ③ | | 基盤実習・関係機関実習 | | 学校課題探究実習・学校変革試行実習 | |
| | 標準修得単位数 | | 18 | 19 | 2 | 7 |

※下線は、選択必修科目（2科目のうち1科目以上を履修する）。